

問 1

芸術教育としてのホスピスー創造活動の原点（19 字）

問 2

人生という作品を仕上げるため、限りある命を愛おしみ、一刻もおろそかにしないという濃密で創造的な面から、創造活動の原点ともいえる死への畏怖と共鳴の回路を詰まらせないことを感じてほしいと考えている。（97 字）

★以下に相当する趣旨の記述があるかチェック

- ①人生という作品を仕上げる（ため）
- ②限りある命を愛おしみ、一刻もおろそかにしない（という面から）
- ③創造活動の原点ともいえる
- ④死への畏怖と共鳴の回路を詰まらせない（ことを感じてほしい）

問 3

私が医師となり終末期の患者を受け持った際には、適切な医療行為を行った上で、以下の 2 点を大切に患者と接していきたい。

1 つ目は、傾聴の姿勢である。患者は人生最期の瞬間を迎えるにあたり「最期にこれだけは」といった願いを抱くかもしれない。そのような要望を聞き逃さないよう、日ごろから患者の話すことへ真摯に耳を傾けることが肝要となる。また、「最期にこれだけは」といった願いがなくとも、これまでの人生や日常の話を傾聴することで、心安らかに死を受け入れる覚悟ができてくるだろう。

2 つ目は、共感の姿勢である。人生最期の瞬間を迎えようとしている人の中には、暗い闇の奥底に落ちたような深い悲しみを感じている人もいるだろう。そのため、「あなたは 1 人ではありませんよ」といった強い共感、寄り添う姿勢を大切に、患者へ心の安らぎを与えることも重要だと考える。

（375 字）

